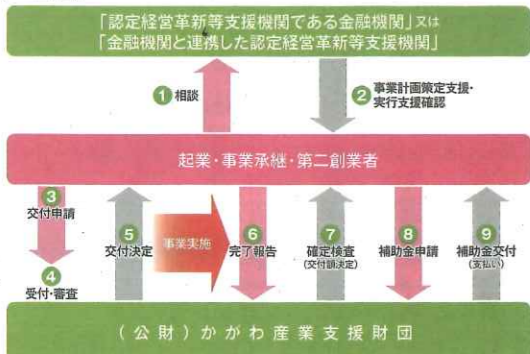


起業等スタートアップ支援補助金の申請を募集しています！

(公財)かがわ産業支援財団では、県内での社会的事業分野(※1)における効果的な起業、事業承継または第二創業を促進し、地域の諸課題の解決を通じた地域活力の向上を図ることを目的に、その起業などに要する経費(※2)の一部を補助(※3)します。今年度の募集は、2022年5月27日(金)午後5時まで(必着)です。詳細は、当財団のホームページをご覧ください。

- ※1 地域活性化関連、子育て支援、健康関連、買物弱者支援、まちづくりの推進などの事業です。
- ※2 人件費、事業費(原材料費、広報費など)および委託費です。
- ※3 補助率1/2以内(上限額200万円)

[スキーム図]



(問い合わせ先)
 (公財)かがわ産業支援財団 企業振興部 企業支援課
 ☎ 087-840-0391 かがわ産業支援財団 検索



取締役副社長の松浦英樹さん



アドレット(普通寺市)



「オーダー待ち」でした。当社は、今もまだ「ひも」把手のメーカーだと思われています。私はそのイメージを変えていきたい」と意気込む松浦さん。今、期待をかけているのは、消臭・抗菌・抗ウイルス機能シート「アドレット」です。

アドレットは、トイレのふた裏に貼り付け、用を足した後にふたを閉めて流すと、消石灰の力で消臭しながら、菌やウイルスの増殖リスクを下げるというものです。同社は全国にアドレットの代理店を展開し、香川で初めて導入した琴平町を皮切りに、全国の自治体や学校へ積極的な販売

3月からは100円ショップで一般販売も始まりました。強度を支えているのは、紙袋のひも抜けを防ぐ粘着技術です。

「タックハンドルは、メーカーのロゴなどを印刷すると販促商品にもなります。ここから企業向け販促事業のチャンスが生まれ、プラスチック成型技術が大いに活躍しました」と松浦さん。さまざまな販促商品を手掛ける傍ら、今も毎年新しい金型の開発を奨励しています。

を進めています。

父の代から東京と香川を行き来する生活で、営業も東京がベースだという松浦さん。「ネットの情報では遅すぎるんです。自分の目で世の中を定点観察し、変化の兆しをいち早くつかんだ新商品を生み出せるスピード感が、当社の強み。アドレットにも兆しを感じました。アドレットを意味する言葉であり、デザイン次第で企業販促になります。新たな広告戦略として本格的に展開するとともに、コロナ禍で感染症対策意識が高まる中、「トイレのふたは閉めて流そう」という啓発にもつながりたい」。

琴平の小学校の子どもたちにスマホ用アドレットを配布し、七夕のメッセージを寄せてもらう取り組みは、地元メディアにも取り上げられました。「でも、東京の人は全然知らないんですよ。知られていない商品も会社も「ない」と同じ。当社を広く知ってもらおうプレスリリースの大切さを痛感しました」と松浦さん。広報にも一層力を入れて、自社発信型のビジネス確立を目指しています。

問い合わせ先
 (公財)かがわ産業支援財団 取引支援課
 ☎087-868-9904

柔軟なプラスチック成型技術で事業分野を拡大

松浦産業株式会社は今年、創業90周年を迎えます。創業当初はわら縄の製造を手掛けていましたが、時代とともにプラスチック製のひもへ移行。次に紙袋の把手の分野に参入し、さまざまな把手のニーズに応える中で、プラスチック成型の技術を確立しました。

「紙袋の把手から、二つの事業が生まれました」と、取締役副社長の松浦英樹さん。プラスチック成型技術は金型を変えればさまざまなも

のが作れるため、キャラクターグッズやアメニティの製造に応用できます。品質に厳しい日本最大級のテーマパークの認定工場になったことをきっかけに、キャラクタービジネスの需要が拡大しました。

もう一つは、特許も取得した段ボール用の把手「タックハンドル」シリーズです。シールタイプで持ち上げたいものに貼り付けるだけの手軽さながら、10倍以上の重さに耐える強度があり、1989年の発売以降、ビール飲料メーカーや家電量販店をはじめ、多くの大手企業と直取引がスタート。今年

技術と情報感度を武器に 新たな企業販促を提案



プラスチックひもから企業販促へ、成型技術を生かして柔軟に展開。世の中の変化を敏感に捉え、常に新しいビジネスを模索する、香川のものづくり企業を紹介します。

松浦産業株式会社
 住所 香川 普通寺市 上吉田町 270-1
 創業 1932年
 ☎0877-62-2555
<https://www.matsuura-sangyo.co.jp/>

